

## 平成 30 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「実践ケア賞」

古賀市キャラバン・メイト連絡会「橙」

【設立年月日】2009 年 10 月 1 日

### 【授賞理由】

認知症になっても安心して暮らせるまちづくりの実践として、小学生・中学生を対象とする学習会「オレンジ教室」を地域に普及させました。この活動は認知症の正しい知識を伝えると共に地域社会の重要性を考える場としての役割を担い地域の福祉力向上に大きく貢献しました。

### 【団体概要】

さまざまな職種から成り立つキャラバン・メイト同士の情報交換や研修を行うことで古賀市認知症サポーター養成講座を円滑に実施することができ、1 人でも多くの認知症サポーターが生まれることで「認知症になっても安心して暮らせるまちづくり」の一翼を担うことを目標としている。また、ジュニア認知症サポーター養成講座「オレンジ教室」においては、生き方の先輩である高齢者を敬う気持ちを育てること、認知症に限らず困っている人を支援できる思いやりの気持ちを育てること、認知症を正しく理解して子どもたちも地域を支える大事な一員であるということを学んでもらうことを目的として活動している。

### 【事業活動】

この活動を構成しているキャラバン・メイトのメンバーは、専門職のみならず、民生委員や福祉員など一般市民も含まれている。この住民主体の活動は、市民全体が認知症について「知ろう、学ぼう、伝えよう」という意識づくりにつながっている。いつでも、誰でも、どの場面でもスムーズに講座が開催できるように、学習会を開催するとともに、プログラム化している。小学生、中学生を対象とした「オレンジ教室」は、古賀市役所・古賀市教育委員会・古賀市キャラバン・メイト連絡会「橙」が三位一体となって実施しており、古賀市小学校独自の人権教育副読本「いのちのノート」に講座の内容が組み込まれている。小学校で学んだ内容を中学校で再度学習することで、さらに関心を深めてもらえるように取り組んでいる。

### 【業績等】

古賀市全小学校で「オレンジ教室」を開催し、中学校での見直し学習を行うことで、子どもたちから親、兄弟などの家族へ認知症の学びを伝え、家族間で話題にしてもらえるよう働きかけている。子どもたちから親兄弟へ、親兄弟から地域へと、認知症や認知症サポーターについての関心が広がっている。「オレンジ教室」の開催前後に行うアンケートや子どもたちのお礼の手紙からも、活動を重ねるごとに子どもたちの思いやりの気持ちが実感としてより強く伝わるようになってきた。アンケートは毎年集計し、翌年のキャラバン・メイトの総会や小中学校

の校長会で報告している。アンケート結果をもとに講座資料の見直しを行い、キャラバン・メイトと教員が子どもたちの認識を共有することで、より良い講座を開催できるよう努めるとともに、キャラバン・メイトや教員の認知症サポートの普及啓発に対する意欲の向上にもつながっている。